

---

# ラスキンの冒険

ポポンチヨ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ラスキンの冒険

### 【コード】

N0030H

### 【作者名】

ポポンチヨ

### 【あらすじ】

たあやはわならわたしはわまたはたあやはわならわたしはわまたは

## 魔の少年

「ブロンドの長髪」オラムの美しい顔は、血に濡れていた。右膝から下、左の肘から下が切り落とされ、腹と胸に矢が刺さっていた。

兵士が、とどめを刺そうと槍を振り上げた。しかしそれが振り下ろされる事は無かった。兵士の首のあたりで剣がパツと煌めき、頭が地面に落ちたからだ。

首の無い死体の後ろから現れた男を見て、オラムはわずかに笑みを浮かべた。

「オロジム……」

最後の方で、声が霞んだ。オロジムはなすすべなく跪き、巨体を揺らした。

思慮深い目を涙で潤ませ、オロジムは首を横に振った。

「駄目だ」

オラムはなんとか笑みを保っていたが、その目と声音は哀願していた。

「オロジム……友よ、逝かせておくれ……」

次の瞬間、オラムの瞳の輝きが消えた。その目はもはやどこも見

ていなかった。

オロジムは親友の前にひれ伏し、低くうめいた。

その周りでは、最後の首を討ち取るうと、千人もの兵士達がひしめき合っていた。

オロジムは天を仰ぎ、怒りの咆哮をあげた。

「貴方は殺すべき者を見誤りました」

見物しているであろう神にそう呟くと、剣を掲げて、荒波の如く押し寄せてくる敵陣に突っこんだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0030h/>

---

ラスキンの冒険

2011年1月11日21時04分発行